

## スリランカにおける幼児教育の現状と課題 - NGO の視点から -

講師 馬場繁子氏(スランガニ基金(SVS) 代表)  
(SVS : Surangani Voluntary Services)

日時 : 2003 年 10 月 1 日 (水) 18:00 ~ 20:00

場所 : お茶の水女子大学 子ども発達教育研究センター プロジェクト室

主催 : お茶の水女子大学 子ども発達教育研究センター

### (1) 団体概要

#### 連絡先

- ・ スリランカ事務所 : 62/10 Kirulapone Mawatha Kirulapone, Colombo 5 Sri Lanka  
Tel/Fax:+94 (0)11-4-516047
- ・ 東京連絡所 : 町田市本町田 2577 ホ-16-107  
Tel/Fax:042-792-1972
- ・ ホームページ <http://www.surangani.org>

#### 目的

スリランカの子どもたちを取り巻く学びの環境を整える。スリランカの幼児教育分野へは、内外の支援活動が活発におこなわれているが、地域により情報や支援による貧富の差が生まれている。スランガニは支援の少ない、情報の入りにくい地方のプレスクールを中心に活動している。

#### 馬場繁子代表

- ・ 元・青年海外協力隊隊員。1987 年からスリランカの幼稚園に派遣された。3 年間半活動後、スランガニ基金を立ち上げた。
- ・ 亜細亜大学国際関係学部 4 年間、アメリカの大学院を 2000 年卒業。修士論文を活用しながらスランカの活動実践。

### (2) スリランカの気候, 内戦, 民族

#### 気候

地域によってことなる。高地は気温の変化が激しく、朝晩防寒具が必要。

#### 道の状況

メインルートはかなりよい。海外の援助で整備がされている。ただ、はずれるとかなり悪く、時間もかかる。車でもあまりよいわけではない。

#### 民族

- ・ シンハラ人 : 国の 74%。シンハラ語を国語にしようとした。

- ・タミール人：18% 2種類。スリランカタミール，インドタミール。インドタミールは，イギリスの植民地時代コーヒー、紅茶の栽培で連れてこられた人々。言葉がタミール語
- ・ムーア人7% その他1%

#### 宗教

仏教70% ヒンドゥー教15% キリスト教 8% イスラム教

#### 内乱

- ・2002年の2月から停戦であるが、LTTEがまだ交渉の席に来たことがない。しかし戦闘としてはない。再度突入はよほどのことがないと、というのが国民の意識ではないか。
- ・北東部、LTTEの支配下（独立国家としての認定を目的とする）  
キャンプの難民もまだいる。キャンプ内で幼児教育がおこなわれている。バティッカロアにいったら、トラウマの子どもが多い。子どもたちの精神的なケアセンターをしている外国の支援団体もあるが、さらに必要。  
教育面復興も遅れているが、ドイツの援助が初等教育で動いている。
- ・学校は、民族により分かれている。幼稚園では、タミール語の歌をシンハラ幼稚園で教えていたりもする。

### (3)スリランカにおける幼児教育や援助の背景

#### 識字率

ユニセフの資料によると高いが、地方に地方やスラム地区に行くと学校に行っていない子どもも見られる。新聞をよく読む。

#### 生活レベル

- ・中流レベルが多い。インドの中流カーストでいどがほとんど。
- ・地方にいけば、カーストの差がシンハラの中でもある。この家庭が用意した食事は食べたくないなど。この幼稚園にはいきたくないなど、という事例からカーストが判明することがある。
- ・スリランカは内戦がなかったら、シンガポールぐらい発展できたといわれている。途上国であるが、餓死するようなレベルの子はいない。昔の民話にでてきたように、手を伸ばせばなんでも食べ物がある豊かな国。あくせくしなくても食べていける。ケセラセラ、という意識。

#### 海外志向

- ・外国にいて研修している人が多く、識字率が高いので、外国からのパイロットプロジェクトもかなりおこなわれている。外国の人の言うことは意外とよくきく。

#### 日本に対して

- ・親日家の人が多い。日本は広島の後でこれだけ発展した国という認識があるため。おしんのサクセスストーリーも何度も放映されている。
- ・日本は黄金の国。日本の1ヶ月がスリランカの1年間の給料。連れて行ってほしいと必ずいわれる。

#### 親が幼稚園に期待すること

- ・将来につながる第一歩。小さい時から教えておけば大きくなっても成功する。

- ・イギリス植民地の影響が、学校に行かせるという親の意識がものすごく高い。インドやネパールに比べ、親が熱心。
- ・文字 = 教育という意識が根つよく、字を教えると成功するという考えがある。アカデミックな部分の文字教育をやらないと、その幼稚園では何もやっていないとみなされる。歌や踊りではアカデミックではない、ということに。
- ・シンハラ人というのは世界的にみて少数民族なため、英語が必要。英語熱が強い。そのために外国に、イギリスのロンドンイグザムをめざす。ロンドンの歴史を勉強してスリランカの歴史を勉強しなかったりする。
- ・またテレビやラジオが盛んで、外の様子がよく分かる。したがって、英語がわかれば外にでていける、教育=英語という考えがある。
- ・英語を教えたり文字を教えない幼稚園は人気がなく、園児も減り、死活問題に。
- ・しかし、長期的な視点をみると、遊びの中の学びの方が成功する、ということが少しずつ理解されてきた。研修会でも幼稚園を経営、ビジネスで考えてみるというふうな発想の転換を図る。

#### 子どもの数

教育にお金がかかるために、都心のほうは2人くらい。家族計画が受け入れられている。地方では2人～5人くらい。平均寿命は72歳。

#### 医療

- ・充実しており、医療は無料。社会民主主義の国。それで発展が遅れているという声もあるが。
- ・保健婦さんが村に1人は必ずいて、栄養調査・乳幼児検診や体重をはかったりなどがなされている。無料の国立病院は並ぶので、お金のある人は私立病院に行く。選択肢がある。

#### (4)スリランカにおける幼児教育

##### 政府による援助や基準

- ・政府からの資金援助は、現在はない。教材購入も難しい。
- ・政府による幼稚園設置基準は、現在はない。いろんなところが適当に建てる。寺併設や、農業組合が立てた建物なども。コミュニティセンターとして使っている幼稚園が6～7割。単独は少ない。
- ・94年にできた、将来理想に近づけたい設置基準がある(資料)。ゆくゆくはそれを満たしていない園は廃止、という形になる。しかし基準が高いため、8割以上はクリアできないだろう。
- ・婦人問題雇用省が3歳から5歳までのシラバスを作成。リサーチペーパーもついている。その後、ユニセフ・セイブザチルドレン・チャイルドビューローが合同で作成した。しかし、外国の方がつくったので、スリランカの文化にあわないものがある。
- ・環境庁が出している子どもが取り組める環境教育(ゴミを捨てない、木を大切に等)のハンドブックもある。
- ・義務教育は小学校から無料。制服・教科書も支給される。しかし、貧しい家庭では、一番最初に準備しなければならない文具品や靴など約1000ルピーが用意できないため、

ドロップアウトするケースもある。

#### 教員

- ・最終学歴：中学3年ぐらい。高卒の方も
- ・幼稚園教員と地位：一ヶ月500ルピーから1000ルピー。小学校の教員の給料（6000ルピー）。地位も小学校の先生の方が高い。
- ・先生は若く、結婚するとやめることが多い。結婚すると家にいなければならないため。
- ・園長先生はいない。1人の先生が運営している。寺子屋のような形式。相互扶助の意識が高く、ちょっと子ども預かってほしい、というところからスタート。
- ・男性は稀で、女性のほうが圧倒的に多い。500ルピーという給料をみると、生活は苦しい。
- ・小学校の教員には退職金・有給休暇・クリスマスボーナスなどができるが、幼稚園はない。

#### 月謝

- ・1人1ヶ月、25ルピーから100ルピー。
- ・スリランカのお祝いに1週間2週間幼稚園を休むと、休みが多いからといって親が月謝を払わない。父母会でお金を払ってあげてと説明などもするが、先生たちは親に直接言えない。
- ・貯金・マイクロクレジット（小額お金を貸し付けて、1年間で返済）の方法も始めている。
- ・お母さんにもお金・貯蓄の意識を持ってほしいため、銀行と一緒に「子ども貯金箱」プログラムを行っている。銀行が貯金箱をくれる。毎日子どもに小額のお金を持たせ、幼稚園にある自分の貯金箱に入れる。年度末に銀行が来て計算して子どもの名前で通帳を作る。18歳になるまでおろせない。

#### 制服

- ・みんな着ている。制服のサンプルをみせて、お母さんが作る。
- ・イギリス時代の植民地の影響だろう。制服を着ているというのはアカデミックな場への参加という意味。また制服のあるほうが貧富の差がみえない。スリランカの人には着道楽。週に一回は好きな服を着ても良い「パータパータ」（色々）の日を作る。お遊戯会や、発表会の時、お母さんの熱意は高く、借金してでも生地を買って衣装を作る。

### (5)幼稚園教員の研修

2日間の研修（製作・折り紙・ゲーム）

#### 対象

- ・すでに幼稚園の先生として活動している方。フォローアップ。
- ・幼稚園教諭資格は、現時点では必要ない。しかし、いずれ資格のないところは廃止という政府の動きがある。研修会では修了証書を出すため人気がある。

#### 目的

先生たちは熱意があるが、保育の技術（ちょっとしたハンドワーク、ゲームのやり方）を教えてあげれば、もっと保育が実りあるものになると考えた。そのため、歌だったらとにかく書いて、何回も歌って、という感じに。バスで1・2時間かけてくる先生もいる。

#### 内容

- ・歌・ゲーム・英語・応急処置の方法・栄養指導（地区のドクターを呼んで講義をしてもらう）。もう少し長い研修会であれば、児童心理や経営方法など、しっかりと伝えることができるが、実技指導を希望する声が圧倒的ないや意図を説明できるが、基本的に先生養成主義。
- ・政府の研修会との違い：政府のものは、講義が中心。児童心理学もあるが、先生方は、明日やることを知りたい、実践を知りたい。

日当

年間 150 万でやっている。先生 1 人 50 ルピー（約 500 円）を集め、地区連合の資金への還元する。

スモールグループと積立貯金

- ・地区で幼稚園が 5 ~ 10 集まりスモールグループを作り、保育の情報交換とシェア。
- ・積み立て貯金が今年から始まり、10 ルピーずつ集め貯金。キープしたお金をない人に貸して、利子をつけて戻す。利子がたまって、それを基金にしてやっていく。

情報誌

- ・年 2 回の研修会では少ないので、保育情報誌を 2 ヶ月に一回発行している。先生たちに無料配布。
- ・内容は、絵本箱事業の情報、折り紙、子どもにあった環境、おもちゃとは、英語、タミル語の会話、幼稚園経営の方法、子どもの出席・休んだ理由をきく、長く休んだら理由をききましょう、タオルでつくるお人形やさん、など。研修会に参加できなくても郵送なので多くの先生に届く。

## 6.教材

市販のもの

クレヨン、鉛筆、色紙、カードボード、わら半紙、など。

廃材を使ったもの

石鹼の包み紙、鉛筆のけずりかす、豆、ココナッツの削りかす、マッチの芯などをつかって製作。ヨーグルトカップを使ったお花、など。

紙を使ったもの

- ・紙は比較的高いので、わら半紙（A4 サイズ）に描く絵がほとんど。大きな絵の経験が少ない。紙にかけない場合、地面に描いたり、砂で作ったり、草木の種で文字などをつくったりする。
- ・研修会のときに先生の作品を集めて目的を書いて展示した。そうすると情報交換に。

大型遊具

- ・シーソーやブランコ、のぼり棒など。ブランコはココナッツの殻とロープ。ココナッツが使える。

見た目にきれいな鉄製のブランコなどが歓迎されているが、子どもが手を切ったり、柵がないため事故が起こったり、安全面を考慮はまだまだ。（日本にはココナッツがないので、どうやって日本人は生活をしているのかと言われる。葉芯で藁をつくったり、すべてココナッツを用いる。）

## 7.絵本箱事業

### 内容

- ・ 移動式の木製の箱にスリランカの絵本 25 冊が入っている。貸し出しバックと感想ノートをつけて週末家庭への貸し出しを行う。
- ・ 感想ノートには親が子どもに読んであげた時の、子どもの声や親の感想を記録する。それを作者（スリランカの人）にフィードバックする。
- ・ 幼稚園で1ヶ月使ったあと、次の地区内の幼稚園と絵本を交換する。巡回して、本を貸し出している。

### 目的

- ・ 読書は楽しみであることを知らせる。絵本を通して、楽しい世界を知ったり異文化を知るきっかけになる。スリランカの絵本は、絵が中心ではなく、字が多い。また道徳、教訓色が強いものが圧倒的。
- ・ したがって、この事業をもとにスリランカの絵本の質を上げたい。

### 成果

- ・ 絵本の誤字があったなどの声があり、親の意識も高くなったお父さんに読んでもらいたいということから、家族のつながりができたという声も。地区内の幼稚園の連帯も強くなった。

### 今後

- ・ Peace education と絡めたものを作っていこうと、作家と活動をおこなっている。
- ・ 11月にスランガニで計画している絵本研修会がある。絵本を作っても、色が多いからコストが高くなり、出せない、など、議論してどうすれば絵本が文化として根づくかを考えていく。